市民会館（仮称）市民文化交流センター基本計画策定におけるシンポジウム

開催日時

日　時：11 月 12 日（土） 10：00 ～ 12：00
場　所：和歌山市民会館　市民ホール

開催主旨

新しい市民会館を伏虎中学校跡地に移設するにあたり、「芸術文化・人に出会う喜びや感動がまちの元気につながる『にぎわいの文化交流拠点』」を基本理念とする新市民会館がこれからの和歌山市のまちづくりや賑わいにどのようにつながっていくのか皆さんと考えていくためにシンポジウムを開催しました。

基調講演

演　題：　みんなに愛され支持される施設
～公演入場者 50 万人～

講　師：　藤村　順一氏（兵庫県立芸術文化センター副館長）

兵庫県立芸術文化センターの副館長である藤村氏をお迎えして、 基調講演を実施しました。

「みんなに愛され支持される施設」をテーマに、 阪神大震災を乗り越え復興のシンボルとなった兵庫県立芸術文化センターの運営方法や県民に支持されるための工夫などをご説明して頂きました。

まず、 兵庫県立芸術文化センターの運営方法としては、 プロデュースとマネジメントの役割を明確に区別し、 プロデュースの部分では計画段階から芸術監督が参画することで、ハードとソフトが一体となった施設を実現されています。

また、マネジメントの工夫としては、「マイナスをプラスに転じて」ということをテーマとし、 震災後の復興のシンボル施設とすることや、 大都市（大阪・神戸）の中間という立地条件を逆手に取った地域密着型の施設づくりを行われています。 また、 若手新楽団の設立など様々な工夫により、 年間公演 300 本公演入場者 50 万人を実現し、 県民に支持される施設となっています。

シンポジウムの流れ

10:00 **主催者挨拶**
（和歌山市教育委員会）

10:05 **基調講演**
演題：「みんなに愛され支持される施設」
～ 公演入場者 50 万人 ～
講師：藤村順一氏
（兵庫県立芸術文化センター副館長）

10:35 **新市民会館の施設計画について**
基本計画の策定に向けたこれまでの経緯や現状の施設計画、 外観イメージ案の説明をしました。
説明者：梓設計・環境建築計画共同企業体

10:50 **パネルディスカッション**
テーマ：「まちの元気につながる（にぎわいの文化交流拠点）新市民会館」
コーディネーター
下村泰彦氏
（大阪府立大学大学院
人間社会システム科学研究科教授）
パネラー
藤村順一氏
（兵庫県立芸術文化センター副館長）
平田隆行氏
（和歌山大学システム工学部
システム工学科准教授）
森川隆之氏
（和歌山大学名誉教授）
草加淑也氏
（空間創造研究所）
島　桐子氏
（建築三団体まちづくり協議会）
泉永祐希氏
（県立向陽高校吹奏楽部２年）
小坂夏鈴氏
（県立向陽高校吹奏楽部２年）

12:00 **閉会**

新市民会館の施設計画について

新しい市民会館の施設計画について、 基本計画を担当している梓設計・環境建築計画共同企業体より説明しました。

これまで実施した意見交換会や 4 回のワークショップを踏まえた、 平面計画案の説明と今後の検討事項の説明を行いました。 また、 外観デザインの方向性を示す 3 案を提示し、 そのコンセプトの考え方を説明しました。

今回説明した平面計画やデザイン案は確定したものではなく、 これまでの経緯などを踏まえた現状の案としてご説明しております。 今後は皆様から頂いた意見をもとに基本計画を進めてまいります。

パネルディスカッション

テーマ： まちの元気につながる（にぎわいの文化交流拠点）新市民会館

コーディネーター： **下村　泰彦氏**（大阪府立大学大学院人間社会システム工学研究科教授）
パネラー　　： **藤村　順一氏**（兵庫県立芸術文化センター副館長）
平田 隆行 氏（和歌山大学システム工学部システム工学科准教授）
森川 隆之 氏（和歌山大学名誉教授）
草加 叔也 氏（空間創造研究所）
島　桐子 氏（建築三団体まちづくり協議会）
泉永 祐希 氏（県立向陽高校吹奏楽部２年）
小坂 夏鈴 氏（県立向陽高校吹奏楽部２年）

以下ディスカッション内容

（下村）本施設を計画する上で、 芸術が人をつくり、 街をつくるという意味で運営方法含め施設のファンづくりが重要である。市民会館をつくる上でどういった事に配慮すべきか？何が大事か？という事を見極め、 大きな方向性を定める基本計画を策定する必要がある。 基本計画の策定を行う上で各パネラーの意見を参考にしたいと考えている。

●各パネラーの意見

（平田）住民参加型のまちづくりという点でプロセスと場所性を考慮することが重要。
和歌山の中心市街地でありその場所をどう考えるのか、 市民の関心も高い場所である。 その場所にどんなものを建てるべきか？市民会館を建設するのであれば、 その施設がよくなる為の意見を出すことが大切である。

（森川）市民会館が芸術文化の発信地となる為には音楽ﾎｰﾙとして機能を備えて欲しい。 紀美野町文化センターのみさとホールのような雰囲気がよい。

（島）　景観条例制定後、 初のけやき通り沿いの建物となる。 質の高いデザインでけやき通りの指標となる建物まちづくりとデザインとして欲しい。

（草加）劇場とはソフトウェア、 ハードウェア、 ヒューマンウェアを合わせたものである。 普段市民会館に行かない人が来てくれるような施設にならないといけない。 本施設で地域の方がｺﾐｭﾆﾃｨを形成していく機能が必要であり、 さらにそれを活かし波及していくことが重要。

（小坂）イベント時のみでなく、 気軽に入れる場所（勉強の場・カフェ）、 芸術に関われる場所としてほしい。

（泉永）若者の集客を考慮すると移動手段（自転車置場）の整備を考慮してほしい。

●フロアからの意見・質疑

（ﾌﾛｱ①）一般市民向けの音楽練習場所が必要である。

（ﾌﾛｱ②）施設を多機能とするのは良いが、 運営上問題が出ないのかが懸念される。

（ﾌﾛｱ③④）残響時間の幅、 可動式席でのデメリットがないのか。 駐車場の整備はどのように考えているのか。

（草加）音響反射板で 0.3 ～ 0.4 秒の変化有。 残響負荷装置等も有。 可動式席はコスト・スペースを考慮する必要有。

（下村）周辺環境を捉え、 景観計画にも配慮し、 周辺との回遊性を考慮する必要がある。 施設機能として設備の整備、日常利用等に関しても考えていく必要がある。

●各パネラーの意見

（藤村）本敷地は隣接にホテル、 前面に和歌山城というロケーションがある、 案では展示室と舞台（ホール）がありお互いに刺激し合える関係性にある等期待できる要素が沢山ある。

（平田）どういった特徴のホールにするのかまだ定まっていない。 音楽も世界的楽団か地域の楽団か何を主体にするかで変わるのではないか。

（森川）残響の話はあるが、 音楽主体のホールを希望する。

（島）　外観デザインに関心を持つことが重要。ガラス面を多用している為、熱負荷や掃除等の維持費についても検討が必要である。

（泉永）ロビーに育児スペース等の場所があれば若い世代の集客に繋がる。

（下村）非日常的な使用、 日常的な利用がｺﾐｭﾆﾃｨを形成し、 まちづくりに繋がっていく。

（草加）社会包摂的機能を持つ施設を備えることが、 地域のｺﾐｭﾆﾃｨを形成するきっかけになり賑わいを創出することになる。

●まとめ

（下村）市民の同意を得ながら最終的には行政が決定していく、 市民の意見を受け止めるプロセスが重要である。
施設から周辺への波及効果、 賑わいの発信拠点のなる為、 屋外と周辺の関係性を考慮した施設とすべきである。